

B 研究体制・方法

本調査は、2003年より5年毎に実施しており、今回は、第1回2003～2004年、第2回2008～2009年に続く第3回目の調査（2013～2014年）である。今回は、調査実施体制等を考慮して、ブロック拠点病院＋ACC調査、中核拠点病院等調査の2つに分けて実施した。

第1回調査：2003年度 5病院 566名

【対象病院】ACC、ブロック拠点病院、中核拠点病院の5病院（北海道・東京2・大阪・九州）

【方法】20歳以上65歳未満の外来受診HIV陽性者を対象に、無記名自己記入式質問紙を医療者より配布、HIV陽性者自身が郵送にて調査事務局に返信。症状等で調査依頼困難な人、初診の人、日本語の読解が困難な人は対象外。九州と北海道は期間を限定せず配布、東京は1か月間、大阪は150票を配布。

【配布回収】配布754票、回収566票（回収率72.3%）

【調査期間】2003年12月～2004年5月

【研究主体】平成15-16年度厚生労働科学研究費補助金「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」（代表：木村哲）

分担研究「HIV感染者の地域生活支援におけるソーシャルワークに関する研究」（分担：小西加保留、協力：生島嗣、若林チヒロ）

第2回調査：2008年度 33病院 1,203名

【対象病院】ACC、ブロック拠点病院、中核拠点病院（2008年6月現在）の59病院に依頼状を郵送、35病院から返信があり、33病院から協力可能の承諾を得て、各病院の配付可能数を集約した。

【方法】外来受診HIV陽性者を対象に、医療者が無記名自己記入式質問紙を配布。HIV陽性者自身が郵送にて調査事務局に返信。配布は外来受診順としたが、症状等で依頼困難な人、初診の人、日本語の読解が困難な人は対象外とした。

【配布回収】配布1,813票、回収1,203票（回収率66.4%）

【調査期間】2008年12月～2009年6月

【研究主体】平成20-22年度厚生労働科学研究費補助金「地域におけるHIV陽性者等支援のための研究」（代表：生島嗣）

分担研究「HIV陽性者の就労と社会参加に関する調査」（分担：若林チヒロ）

第3回調査：2013年度 31病院 1,469名

【方法】外来受診HIV陽性者を対象に、医療者が無記名自己記入式質問紙を配布。HIV陽性者自身が郵送にて調査事務局に返信。配布は外来受診順としたが、症状等で依頼困難な人、日本語の読解が困難な人は対象外とした。

【倫理審査】埼玉県立大学倫理委員会にて承認（承認番号25001号）。合わせて倫理審査を必要とする各医療機関の倫理委員会においても審査を受けた。

【研究主体】平成24-26年度厚生労働科学研究費補助金「地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究」（代表：樽井正義）

分担研究「HIV陽性者の生活と社会参加に関する調査」（分担：若林チヒロ、協力：生島嗣、他）

【A調査】ブロック拠点病院とACC調査 9病院 1,100名

【配布回収】対象者数は各病院の陽性者数の40%とし、2病院は実施体制等を考慮して抽出率を下げた。配布1,786票、回収1,100票（回収率61.6%）

【調査期間】2013年7月～12月

【対象病院】ACCと全国8地域の各ブロック病院の計9病院。地域内に複数のブロック病院が指定されている場合は、もっとも陽性者数の多い1病院を対象とした。

- 北海道大学病院
- 独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
- 独立行政法人国立国際医療研究センター / ACC
- 新潟大学医歯学総合病院

- 石川県立中央病院
- 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
- 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
- 広島大学病院
- 独立行政法人国立病院機構九州医療センター

【B調査】中核拠点病院等調査 22病院 369名

【配布回収】各病院の陽性者数と配布可能数を考慮して配布数を確定した。

配布687票、回収369票（回収率53.7%）

【調査期間】2013年8月～2014年4月

【対象病院】すべてのエイズ治療中核拠点病院（2012年9月現在）と、A調査で対象外としたブロック拠点病院に、郵便とメールで調査協力を依頼し、実施可能と返信があった病院を対象とした。58病院中30病院から回答があり、26病院が可能であった。実施段階で日程等の都合で4病院が対象外となり、最終的に22病院を対象とした。

- 札幌医科大学附属病院
- 旭川医科大学病院
- 大館市立総合病院
- 筑波大学附属病院
- 群馬大学医学部附属病院
- 都立駒込病院
- 横浜市立大学附属病院
- 山梨県立中央病院
- 新潟市民病院
- 長野県立須坂病院
- 福井大学医学部附属病院
- 岐阜大学医学部附属病院
- 滋賀医科大学附属病院
- 京都大学医学部附属病院
- 広島市立広島市民病院
- 独立行政法人国立病院機構関門医療センター
- 香川大学医学部附属病院
- 長崎大学病院
- 熊本大学医学部附属病院
- 宮崎県立宮崎病院

- 鹿児島大学病院
- 琉球大学医学部附属病院

C 結果

次々ページ以降のA調査報告書、B調査報告書参照。

A調査報告書は、平成25年度厚生労働科学研究費補助金年度研究報告書に掲載した初版のうち、一部データの修正を行った第2版である。

D 本研究の特徴と今後の課題

1. 健康状態と社会生活の両面を調査

本調査は、健康状態と社会生活の両面を同時に調査しており、双方の関連を検討できる点は長所である。HIV感染症が慢性疾患となった現在では、疾患管理・健康管理の場は、病院だけでなく職場や学校、家庭などの社会生活に広がっている。また、就労などの社会生活を継続するには、適切な疾病管理・健康管理が重要であり、健康・医療の側面と社会生活の側面との双方の視点から検討することが重要である。

2. 経年変化の把握

本調査は、5年毎に実施しており、推移を検討できる点は長所である。今回の結果からも受診や服薬などの健康管理や健康状態はこの10年間に顕著な改善がみられたが、就労やメンタルヘルスの状態には変化、改善がみられないことが指摘できた。

しかし、本調査は一時点の実態を調べる横断調査であるため、変数間の因果関係は検討できない。同じ対象集団を経年で追って実施する縦断調査を実施することで明らかになることも多いため、今後は縦断調査も検討するとよい。

本調査の結果で示したHIV感染症の検査値や健康状態は、陽性者本人の自己申告である。今

後診療情報と連結することで、正確な診療情報と社会生活との関連を検討できることは意味がある。

健康問題をもっているため、今後は外国籍の陽性者を対象とした調査が必須である。

3. 調査対象外となる集団

(1) 調査対象病院

本調査では、ACC、ブロック拠点病院、中核拠点病院以外の拠点病院や、一般病院、診療所に受診している人は対象外である。感染が判明しているものの医療機関を受診していない人や、受診中断している人は対象とすることができない。

(2) 回収率・回答の偏り

本調査の回収率（A調査61.6%、B調査53.7%）は、医療機関以外で回収する郵送法調査としては高いが、前回調査の回収率66.4%と比較すると低下している。

医療者の判断により心身の状態から配付を避けた方以外の調査票の受け取り拒否は、各医療機関とも無しかごく数名であった。拒否理由は、調査項目が多くて面倒であること、本調査に限らずアンケート調査に明確な拒否感があること、HIV関連の調査を記載する場所が家庭などで持ちにくいこと、などが挙げられた。いったん調査票を受け取ったものの返信しなかった方々の理由も同様の状況があると考えられる。今回調査はA4用紙10ページに及び調査項目数が多いため、今後はより簡潔に回答できる質と量に工夫することが必要である。

(3) 日本語の読解不可能な方、外国籍の方

本調査は日本語のみであり、調査票レベルの日本語読み書きが可能な方のみを対象としたため、日本語読解が不能な方、外国籍の方は対象外となった。本調査結果では外国籍の方はA調査では1.7%、B調査では3.0%しかいなかったが、厚生労働省エイズ動向委員会報告（2013年12月29日現在）では外国籍のHIV陽性者は16.1%である。外国籍の方は、独特の生活課題、

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業
第3回「HIV陽性者の健康と生活に関する実態調査」

A調査【ブロック拠点病院とACC調査】報告書

2014年

調査項目一覧

1. 基本的属性について		P.6
1) 性別	4) 学歴	
2) 年齢	5) 在学・卒業	
3) 感染経路	6) 国籍	
	7) 階層帰属意識	
2. HIV 関連の健康状態と健康管理		P.8
1) CD4 細胞数	6) HIV 診療での通院頻度	
2) HIV ウイルス量	7) すべての診療での通院頻度	
3) エイズ発症	8) 定期受診している病気、けが、妊娠	
4) 抗 HIV 薬の服用回数	9) この1年間の入院日数	
5) HIV 受診病院の所在地	9-1) この1年間の入院理由	
3. ふだんの健康状態と健康行動		P.10
1) 主観的な健康感	7) 喫煙	
2) 健康問題による日常生活への影響	7-1) 喫煙本数と喫煙開始年齢	
3) 自覚症状	8) 飲酒	
4) すいみん時間	8-1) 飲酒の回数と量	
5) すいみんでの問題	9) メンタルヘルス (K 6 尺度)	
6) すいみん薬・安定剤の使用		
4. HIV 陽性とわかった当時とその後の生活		P.14
1) HIV 検査機関	8) 告知時の就労の有無	
2) HIV 告知年	8-1-1) 【就労者に】告知時の就労形態	
3) HIV 告知を受けた地域	8-1-2) 【就労者に】告知時の雇用形態	
4) HIV 告知時のエイズ発症	8-2) 【非就労者に】告知時の職業	
5) 感染可能性の認識	9) 告知後の離職	
6) 居住地	9-1) 離職理由	
7) 告知後の居住地移動		
7-1) 【転居した人に】転居理由		
5. 世帯や生計、制度の利用		P.20
1) 同居者	5) 健康保険	
2) 世帯の家計主	6) 健康診断	
3) 世帯の年収	7) 障害者手帳	
3-a) 世帯の収入源	8) 障害者雇用制度での就労の有無	
3-b) もっとも主な収入源	9) 障害者雇用制度の利用意向	
4) 暮らし向き	10) 障害者雇用制度の評価	
6. ふだんの生活と人間関係		P.23
1) 地域活動・社会活動・陽性者ネットワーク	6) 将来の生活設計	
2) 周囲の人たちへの病名開示	7) 病気による制約感	
3) HIV 開示しての就学・就労の相談先	8) HIV 告知以降の生活意識変化	
4) 主治医からの就労アドバイス	9) HIV による差別回避行動	
5) 将来の就労意向	10) 差別経験	
7. 就労について		P.29
1) 就労の有無		
8. 就労の状況		P.29
1) 1 か月の就労日数	6) 職種	
2) 1 週間の就労日数と時間	7) 勤務先の企業規模	
3) 健康問題による休暇・休業	8) 勤務先の業種	
4) 就労収入	9) 職場でプライバシー漏洩が不安な事項	
5) 雇用形態	10) 仕事・職場の評価	
9. 非就労の状況		P.34
1) 非就労の理由	3) 就労希望	
2) 就労準備状況	3-1) 就労希望者の非就労期間	
	4) 就労や就職活動の問題点	
10. 日本のエイズ対策への評価		P.36
1) 行政、医療、社会のエイズ対策評価		
11. 薬物について		P.36
1) ドラッグ使用経験の有無	2) 必要な薬物の情報や相談	
1-1) 種類別薬物使用経験	3) 薬物の相談先	
1-2) 薬物開始時期		
1-3) 薬物使用量のコントロール感		

■ 単純集計結果 ■

結果の読み取りに際して

- ・「%」は、欠損値を除いて集計した。
- ・各表の下に付したコメントの数値のうち、2項目以上を加算している場合は、度数から再計算している。そのため、表中の値を単純加算した値とは必ずしも一致しない。
- ・複数回答の質問（1つの質問に対して2つ以上の選択肢を選ぶ質問形式）の場合、回答した人の人数を「全体」で示し、それぞれの選択肢に回答した人数の「全体」に対する割合を「%」で示している。そのため、合計すると100.0%を超える場合がある。
- ・健康状態は、回答がHIV陽性者自身によるものであるため、医学的診断とは必ずしも一致しない。

1. 基本的属性について

(1) 性別

Q. 性別

	n	%
男性	1039	95.1
女性	51	4.7
その他	2	0.2
小計	1092	100.0
無回答	8	
合計	1100	

回答者の95.1%が男性で、女性は4.7%、その他が0.2%。

(2) 年齢

Q. 年齢

	n	%
20～24歳	15	1.4
25～29歳	53	4.9
30～34歳	124	11.5
35～39歳	203	18.8
40～44歳	226	20.9
45～49歳	162	15.0
50～54歳	86	7.9
55～59歳	77	7.1
60～64歳	67	6.2
65～69歳	42	3.9
70～74歳	17	1.6
75～79歳	8	0.7
80～84歳	2	0.2
小計	1082	100.0
無回答	18	
合計	1100	

平均44.6 ± 11.3歳、20～84歳まで広く分布している。60歳以上が12.6%、65歳以上は6.4%。

(3) 感染経路

Q. あなたのHIV感染経路と思うもの(複数回答)

	n	%
異性間の性的接触	181	16.6
同性間の性的接触	861	78.8
注射器の共用	21	1.9
血液凝固因子製剤	48	4.4
血液凝固因子製剤の二次・三次感染	1	0.1
輸血	5	0.5
その他	8	0.7
不明	45	4.1
全体	1092	
無回答	8	
合計	1100	

同性間の性的接触が感染経路という人は78.8%、異性間の性的接触という人が16.6%、感染経路が不明とする人は4.1%。

(再集計) 厚生労働省の

エイズ動向委員会報告の分類により再集計

	n	%
注射器の共用	7	0.6
異性間の性的接触	135	12.4
同性間の性的接触	841	77.0
血液凝固因子製剤	49	4.5
その他	26	2.4
不明	34	3.1
小計	1092	100.0
無回答	8	
合計	1100	

(4) 学歴

Q. 最終学歴(学生の方は在学先)

	n	%
小・中学校	38	3.5
高校	291	26.7
専門学校	215	19.8
短大・高専	55	5.1
大学	437	40.2
大学院	52	4.8
小計	1088	100.0
無回答	12	
合計	1100	

大学が40.2%と多い。

(5) 在学・卒業

Q. 上記の学校の在学・卒業

	n	%
在学中(休学を含む)	8	0.8
卒業	950	90.7
中退	89	8.5
小計	1047	100.0
無回答	53	
合計	1100	

(6) 国籍

Q. 国籍

	n	%
日本	1072	98.3
日本以外	18	1.7
小計	1090	100.0
無回答	10	
合計	1100	

調査票レベルの日本語読み書きが可能な方が対象のため、外国籍の方が1.7%と少ない。

(7) 階層帰属意識

Q. 世間一般の暮らしぶりを6つに区分すると、あなたの世帯はどの辺りにあてはまると思いますか

	n	%
上の上	2	0.2
上の下	27	2.5
中の上	347	31.9
中の下	444	40.8
下の上	191	17.6
下の下	76	7.0
小計	1087	100.0
無回答	13	
合計	1100	

中流という方が72.8%と多いが、下流とした方も24.6%。

2.HIV関連の健康状態と健康管理

(1) CD4 細胞数

Q. 直近の CD4 値 (個 / μ ℓ)

	n	%
～99	40	3.7
100～	52	4.8
200～	163	15.2
350～	331	30.8
500～	470	43.8
分からない	18	1.7
小計	1074	100.0
無回答	26	
合計	1100	

500 個 / μ ℓ 以上の人が 43.8% と最も多い。全体の 89.8% の人は 200 個 / μ ℓ 以上である。

(2) HIV ウイルス量

Q. 直近の HIV ウイルス量

	n	%
検出限界以下	747	70.0
検出された	270	25.3
分からない	50	4.7
小計	1067	100.0
無回答	33	
合計	1100	

70.0% の人がウイルス量を検出限界以下に抑えている。

(3) エイズ発症

Q. エイズ発症

	n	%
経験あり	313	29.0
経験なし	708	65.7
分からない	57	5.3
小計	1078	100.0
無回答	22	
合計	1100	

エイズ発症経験がある人は 29.0%。

(4) 抗 HIV 薬の服用回数

Q. 抗 HIV 薬の 1 日の服用回数

	n	%
1 回	630	58.1
2 回	387	35.7
3 回以上	8	0.7
服薬を始めていない	59	5.4
小計	1084	100.0
無回答	16	
合計	1100	

94.6% の人が抗 HIV 薬を服用している。58.1% の人は 1 日 1 回の服用。

(5) HIV 受診病院の所在地

Q. HIV で主に受診している病院の所在地

	n	%
北海道	37	3.4
宮城県	23	2.1
埼玉県	3	0.3
東京都	442	40.9
新潟県	8	0.7
愛知県	157	14.5
石川県	24	2.2
滋賀県	1	0.1
大阪府	273	25.3
兵庫県	2	0.2
広島県	31	2.9
福岡県	80	7.4
小計	1081	100.0
無回答	19	
合計	1100	

配付は ACC とブロック病院であるが、複数の医療機関を受診している人が数名おり、主な HIV 受診病院の所在地は 12 都道府県に及んだ。

(6) HIV 診療での通院頻度

Q.HIV 診療での通院頻度

(7) すべての診療での通院頻度

Q.HIV に加えて、その他の病気やけが、妊娠も含めて、すべての診療での通院頻度

	HIV 診療での通院頻度		すべての診療での通院頻度	
	n	%	n	%
1 ヶ月に 2 回以上	23	2.1	184	17.5
1 ヶ月に 1 回	257	23.8	303	28.8
2 ヶ月に 1 回	258	23.8	234	22.3
3 ヶ月に 1 回	538	49.7	326	31.0
4 ヶ月 1 回	3	0.3	2	0.2
5 ヶ月以上に 1 回	3	0.3	2	0.2
小計	1082	100.0	1051	100.0
無回答	18		49	
合計	1100		1100	

HIV 診療の通院頻度は、3 ヶ月に 1 回の人 が 49.7% と最も多い。

HIV 診療での通院頻度が 1 ヶ月に 2 回以上の人 は 2.1% であるが、HIV 以外の疾患等も含めたすべ ての診療では 17.5% である。

(8) 定期受診している病気、けが、妊娠

Q.HIV 感染症以外で、定期的に診察を受けて いる病気、けが、妊娠（複数回答）

	n	%
糖尿病	61	6.0
高脂血症	50	4.9
高血圧症	78	7.6
心臓の病気	32	3.1
B 型肝炎	61	6.0
C 型肝炎	52	5.1
腎臓病・透析	19	1.9
胃腸病・痔	28	2.7
うつ・心・精神の病気	115	11.2
依存症	8	0.8
がん	22	2.1
アレルギー疾患	78	7.6
血友病・血液凝固因子症	39	3.8
歯・口腔の病気	181	17.7
眼の病気	88	8.6
骨折・けが	15	1.5
HIV 以外の性感染症	27	2.6
婦人科系の病気	19	1.9
妊娠・出産	1	0.1
不妊治療	1	0.1
その他	96	9.4
とくになし	368	35.9
全体	1025	
無回答	75	
合計	1100	

64.1% の人は HIV 感染症以外の疾患等で定期受診 している。「歯・口腔の病気」17.7%、「うつ・心・ 精神の病気」11.2% など、多様な目的で受診して いる。「その他」は、皮膚疾患、整形外科関連の疾 患など多様。

定期受診疾患等数

	n	%
1 種類	384	37.5
2 種類	182	17.8
3 種類	55	5.4
4 種類	24	2.3
5 種類	10	1.0
6 種類	2	0.2
とくになし	368	35.9
小計	1025	100.0
無回答	75	
合計	1100	

HIV 以外で定期受診している疾患等の数は、21 種 類のうち 1 種類を挙げた人が全体の 37.5%、2 種 類以上挙げた人は 26.6%。

(9) この1年間の入院日数

Q. HIVに関わらず、この1年間の入院日数

	n	%
1～9日間	68	6.3
10～29日間	56	5.2
30日間以上	43	4.0
日数不明	3	0.3
入院なし	914	84.3
小計	1084	100.0
無回答	16	
合計	1100	

過去1年間に入院した人は15.7%で、84.3%は入院していない。

(9-1) この1年間の入院理由

Q. この1年間に入院した理由（複数回答）

	n	%	「入院あり」 170名中 の%
HIV関連の服薬や副作用	14	1.3	8.2
C型肝炎	12	1.1	7.1
HIV関連の疾患や症状	53	4.9	31.2
HIVやC型肝炎とは 関連のない疾患やけが	38	3.5	22.4
HIVとの関連は不明の 疾患や症状	56	5.2	32.9
妊娠・出産	4	0.4	2.4
その他	7	0.6	4.1
入院なし	914	84.3	
全体	1084		
無回答	16		
合計	1100		

この1年間に入院した170名の入院理由のうち、HIV関連（「HIV関連の疾患や症状」と「HIV関連の服薬や副作用」）は39.4%。陽性者自身による回答のため、「HIVとの関連は不明の疾患や症状」も32.9%。HIV関連ではない疾患やけが、妊娠による入院も少なくない。

3. ふだんの健康状態と健康行動

(1) 主観的な健康感

Q. あなたの現在の健康状態

	n	%
よい	357	33.0
まあよい	306	28.3
ふつう	307	28.4
あまりよくない	102	9.4
よくない	10	0.9
小計	1082	100.0
無回答	18	
合計	1100	

主観的健康感は61.3%がよい（「よい」「まあよい」）、10.4%がよくない（「あまりよくない」「よくない」と回答）。

(2) 健康問題による日常生活への影響

Q. 現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか

	n	%
影響あり	219	20.4
影響なし	855	79.6
小計	1074	100.0
無回答	26	
合計	1100	

Q. 具体的にはどのようなことですか（複数回答）

日常生活への影響	n	%	「影響あり」 216名中 の%
日常生活動作（起床、衣服着脱、食事、入浴等）	59	5.5	27.3
外出（時間や作業量などが制限）	63	5.9	29.2
仕事、家事、学業（時間や作業量などが制限）	115	10.7	53.2
運動・スポーツ	93	8.7	43.1
その他	42	3.9	19.4
影響なし	855	79.8	
全体	1071		
無回答（主問）	26		
無回答	3		
合計	1100		

影響が「ある」と感じている人は20.4%。具体的には、「仕事・家事・学業」に影響がある人が最も多く、全体の10.7%。「その他」としては、睡眠障害、精神障害・精神的な不安定さ、仕事との関連での疲労感、血友病の人では歩行障害を挙げた人が多かった。HIV以外の疾患も含めた治療薬の副作用も挙げられた。

(3) 自覚症状

Q. この数日、病気やけがなどで体の具合の悪いところがありますか。どのような症状ですか

	n	%
ある	616	57.8
ない	450	42.2
小計	1066	100.0
無回答	34	
合計	1100	

自覚症状がある人は 57.8%。具体的には、「体がだるい」20.6%、「皮膚のかゆみ」16.9%、「下痢」15.9%、「肩こり」14.8%、「発疹」11.7%、「眠れない」10.7%の順（全体の%）。

		(複数回答)		
		n	%	「症状あり」 616名中の%
全身	熱がある	33	3.1	5.4
	体がだるい	220	20.6	35.7
	眠れない	114	10.7	18.5
	いらいらしやすい	99	9.3	16.1
	もの忘れ	74	6.9	12.0
	頭痛	80	7.5	13.0
	めまい	45	4.2	7.3
胸・呼吸	どうき	31	2.9	5.0
	息切れ	39	3.7	6.3
	胸の痛み	24	2.3	3.9
	ゼイゼイする	18	1.7	2.9
	せき・たん	97	9.1	15.7
	鼻づまり・鼻水	72	6.8	11.7
	腹・消化	胃のもたれ・胸やけ	62	5.8
吐き気		47	4.4	7.6
下痢		170	15.9	27.6
便秘		47	4.4	7.6
食欲がない		43	4.0	7.0
腹痛・胃痛		38	3.6	6.2
ちの痛み/出血		32	3.0	5.2
目耳口歯	目のかすみ	90	8.4	14.6
	物を見づらい	86	8.1	14.0
	耳なりがする	38	3.6	6.2
	きこえにくい	27	2.5	4.4
	歯が痛い	37	3.5	6.0
	かみにくい	15	1.4	2.4
	歯ぐきのはれ・出血	54	5.1	8.8
手足肩腰	肩こり	158	14.8	25.6
	腰痛	130	12.2	21.1
	手足の関節が痛む	72	6.8	11.7
	手足の動きが悪い	45	4.2	7.3
	手足のしびれ	71	6.7	11.5
	手足が冷える	30	2.8	4.9
	足のむくみ・だるさ	81	7.6	13.1
皮膚	発疹(じんま疹/でき物)	125	11.7	20.3
	かゆみ(しっしん/水虫など)	180	16.9	29.2
尿・生理	尿が出にくい・痛い	24	2.3	3.9
	尿の回数が多い	77	7.2	12.5
	尿失禁・もれる	13	1.2	2.1
	月経不順・月経痛	3	0.3	0.5
けが・他	骨折・ねんざ・脱きゅう	26	2.4	4.2
	切り傷・やけどなどのけが	23	2.2	3.7
	その他	25	2.3	4.1
自覚症状なし		450	42.2	
	全体	1066		
	無回答(主問)	34		
	合計	1100		

(4) 睡眠時間

Q. この1ヶ月間の、1日の平均睡眠時間

	n	%
5時間未満	86	7.9
5時間～	282	26.0
6時間～	401	37.0
7時間～	231	21.3
8時間～	66	6.1
9時間以上	19	1.8
小計	1085	100.0
無回答	15	
合計	1100	

「6時間以上7時間未満」が37.0%と多い。「5時間未満」も7.9%。

(5) 睡眠上の問題

Q. この1ヶ月間に、寝どこに入っても寝つきが悪い、途中で目が覚める、朝早く目覚める、熟睡ができないなど、眠れないことがありましたか

	n	%
ひんぱんにある	251	23.2
時々ある	457	42.2
めったにない	264	24.4
まったくない	112	10.3
小計	1084	100.0
無回答	16	
合計	1100	

65.3%の人が睡眠に問題を感じている（「ひんぱんにある」「時々ある」）。

(6) 睡眠薬・安定剤の使用

Q. ここの1ヶ月間に、眠るために睡眠薬や安定剤などの薬を使用しましたか

	n	%
まったく使わない	774	71.4
めったに使わない	56	5.2
ときどき使う	94	8.7
つねに使う	160	14.8
小計	1084	100.0
無回答	16	
合計	1100	

眠るために睡眠薬や安定剤などを「つねに」使う人が14.8%、「ときどき」と合わせると23.4%。

(7) 喫煙

Q. たばこを吸いますか

	n	%
ほぼ毎日吸う	328	30.3
時々吸う	30	2.8
やめた	240	22.1
吸わない	486	44.8
小計	1084	100.0
無回答	16	
合計	1100	

喫煙率は33.0%（「ほぼ毎日」＋「時々」）。禁煙した人も22.1%。

(7-1) 喫煙本数と喫煙開始年齢

Q. (喫煙する方に) 喫煙本数と喫煙開始年齢

	n	%
1～10本	118	10.9
11～20本	185	17.1
21本以上	52	4.8
吸わない	726	67.2
小計	1081	100.0
無回答（主問）	16	
無回答	3	
合計	1100	

	n	%
17歳以下	78	7.3
18～19歳	57	5.4
20歳以上	202	19.0
吸わない	726	68.3
小計	1063	100.0
無回答（主問）	16	
無回答	21	
合計	1100	

1日21本以上たばこを吸う人は全体の4.8%。

(8) 飲酒

Q. お酒を飲みますか

	n	%
飲む	669	61.6
やめた	72	6.6
飲まない	345	31.8
小計	1086	100.0
無回答	14	
合計	1100	

飲酒率は61.6%。やめた人も6.6%。

(8-1) 飲酒の回数と量

Q. (お酒を飲む方に) 飲む回数と飲む量

	n	%
月1～3日	268	24.8
週1～2日	161	14.9
週3～4日	79	7.3
週5～6日	56	5.2
毎日	100	9.3
飲まない	417	38.6
小計	1081	100.0
無回答 (主問)	14	
無回答	5	
合計	1100	

毎日飲酒する人は全体の9.3%。

	n	%
1合未満	173	16.7
1合くらい	150	14.5
2合くらい	157	15.2
3～4合	103	10.0
5合以上	34	3.3
飲まない	417	40.3
小計	1034	100.0
無回答 (主問)	14	
無回答	52	
合計	1100	

1回の飲酒で3合以上は全体の13.2%。

(9) メンタルヘルス (K6 尺度)

Q. この1ヶ月の間に、どれくらいのひん度で次のことがありましたか

精神健康についての質問 (K6 尺度)

		まったくない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも	小計	無回答	合計
神経過敏に感じましたか	n	571	201	198	56	46	1072	28	1100
	%	53.3	18.8	18.5	5.2	4.3	100.0		
絶望的だと感じましたか	n	620	221	147	57	31	1076	24	1100
	%	57.6	20.5	13.7	5.3	2.9	100.0		
そわそわ、落ち着かなく感じましたか	n	574	254	173	51	23	1075	25	1100
	%	53.4	23.6	16.1	4.7	2.1	100.0		
気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか	n	428	329	197	78	48	1080	20	1100
	%	39.6	30.5	18.2	7.2	4.4	100.0		
何をするのも骨折りだと感じましたか	n	500	290	170	80	34	1074	26	1100
	%	46.6	27.0	15.8	7.4	3.2	100.0		
自分は価値のない人間だと感じましたか	n	532	248	170	57	71	1078	22	1100
	%	49.4	23.0	15.8	5.3	6.6	100.0		

メンタルヘルスの評価はK6尺度を用いた。K6スケールは、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されている。6つの質問について5段階(0～4点)で点数化し(合計0～24点)、合計が高いほど精神的な問題がより重い可能性があるとしてされている。厚生労働省が実施する「国民生活基礎調査」において一般住民対象に実施されている。

K6 スケールの合計得点分布

	n	%
0～4点	584	54.8
5～9点	255	23.9
10～14点	137	12.9
15点以上	89	8.4
小計	1065	100.0
無回答	35	
合計	1100	

	n	%
0～4点	584	54.8
5～12点	347	32.6
13点以上	134	12.6
小計	1065	100.0
無回答	35	
合計	1100	

4.HIV陽性とわかった当時と その後の生活

(1) HIV 検査機関

Q.HIV 陽性とわかった時の、最初の検査はどこでしたか

	n	%
保健所	215	20.1
常設検査施設	65	6.1
自己検査キット	7	0.7
郵送検査キット	11	1.0
診療所・クリニック	99	9.2
病院（外来）	376	35.1
病院（入院）	242	22.6
妊娠・出産時の検査	4	0.4
イベントでの検査	12	1.1
献血	33	3.1
その他	8	0.7
小計	1072	100.0
無回答	28	
合計	1100	

医療機関（「診療所」「外来」「入院」）が66.9%、公的検査所（「保健所」「常設検査施設」）が26.1%であった。その他の記載は、海外、人間ドッグ、治験など。

(2) HIV 告知年

Q.HIV 陽性告知を受けたのはいつでしたか

	n	%
1984	4	0.4
1985	4	0.4
1986	2	0.2
1987	2	0.2
1988	2	0.2
1989	10	1.0
1990	4	0.4
1991	6	0.6
1992	9	0.9
1993	7	0.7
1994	11	1.1
1995	8	0.8
1996	16	1.6
1997	8	0.8
1998	24	2.4
1999	18	1.8
2000	27	2.6
2001	41	4.0
2002	23	2.3
2003	39	3.8
2004	38	3.7
2005	54	5.3
2006	74	7.3
2007	79	7.7
2008	96	9.4
2009	73	7.2
2010	93	9.1
2011	93	9.1
2012	100	9.8
2013	55	5.4
小計	1020	100.0
無回答	80	
合計	1100	

HIV 告知年（再集計）

	n	%
～1995	69	6.8
1996～2000	93	9.1
2001～2005	195	19.1
2006～2010	415	40.7
2011～	248	24.3
小計	1020	100.0
無回答	80	
合計	1100	

2011年以降というこの数年内に感染が判明した人が24.3%を占める。一方で感染判明から30年近く経過している人もいる。

(3) HIV 告知を受けた地域

Q.HIV 陽性告知を受けた病院や保健所は、どこの都道府県または国にありましたか

	n	%
北海道	28	2.6
青森県	2	0.2
岩手県	2	0.2
宮城県	17	1.6
秋田県	1	0.1
茨城県	4	0.4
栃木県	3	0.3
群馬県	4	0.4
埼玉県	18	1.7
千葉県	20	1.9
東京都	374	35.1
神奈川県	33	3.1
新潟県	8	0.8
山梨県	1	0.1
長野県	2	0.2
岐阜県	6	0.6
静岡県	8	0.8
愛知県	142	13.3
富山県	1	0.1
石川県	15	1.4
滋賀県	1	0.1
京都府	9	0.8
大阪府	220	20.6
兵庫県	12	1.1
奈良県	4	0.4
和歌山県	5	0.5
島根県	1	0.1
岡山県	3	0.3
広島県	27	2.5
香川県	2	0.2
福岡県	63	5.9
佐賀県	5	0.5
長崎県	2	0.2
熊本県	3	0.3
宮崎県	2	0.2
鹿児島県	3	0.3
沖縄県	2	0.2
海外	13	1.2
小計	1066	100.0
無回答	34	
合計	1100	

調査票配付病院は 9 都道府県であるが、感染判明施設は 37 都道府県に及んでいる。「海外」という人も 1.2%。

(4) HIV 告知時のエイズ発症

Q.HIV 陽性告知を受けた際、エイズを発症していましたか

	n	%
発症していた	243	22.7
発症していなかった	738	69.0
わからない	88	8.2
小計	1069	100.0
無回答	31	
合計	1100	

告知時に既にエイズ発症をしていたと回答していた人は 22.7% だった。

(5) 感染可能性の認識

Q.HIV 陽性告知を受ける前、HIV に感染している可能性はどの程度あるとお考えでしたか

	n	%
かなりある	123	11.5
ある程度ある	453	42.3
ほとんどない	314	29.3
まったくない	181	16.9
小計	1071	100.0
無回答	29	
合計	1100	

陽性告知を受ける前に「HIV 感染の可能性が（かなり/ある程度）ある」と考えていた人は 53.8% で、46.2% の人は「可能性はない（まったく/ほとんど）」とっていた。

(6) 居住地

Q. 「HIV 陽性告知を受けた当時」と「現在」の居住地

居住地：HIV 陽性とわかった当時

居住地：現在

	n	%
北海道	29	2.7
青森県	1	0.1
岩手県	2	0.2
宮城県	19	1.8
秋田県	1	0.1
山形県	1	0.1
茨城県	7	0.7
栃木県	1	0.1
群馬県	5	0.5
埼玉県	30	2.8
千葉県	40	3.7
東京都	324	30.4
神奈川県	44	4.1
新潟県	7	0.7
山梨県	1	0.1
長野県	2	0.2
岐阜県	7	0.7
静岡県	9	0.8
三重県	3	0.3
愛知県	137	12.8
富山県	1	0.1
石川県	17	1.6
滋賀県	2	0.2
京都府	15	1.4
大阪府	202	18.9
兵庫県	23	2.2
奈良県	6	0.6
和歌山県	4	0.4
島根県	1	0.1
岡山県	5	0.5
広島県	26	2.4
香川県	1	0.1
福岡県	63	5.9
佐賀県	5	0.5
長崎県	2	0.2
熊本県	2	0.2
宮崎県	3	0.3
鹿児島県	3	0.3
沖縄県	2	0.2
海外	14	1.3
小計	1067	100.0
無回答	33	
合計	1100	

	n	%
北海道	37	3.5
岩手県	2	0.2
宮城県	22	2.1
山形県	1	0.1
茨城県	4	0.4
栃木県	1	0.1
群馬県	1	0.1
埼玉県	29	2.7
千葉県	33	3.1
東京都	327	30.7
神奈川県	40	3.8
新潟県	8	0.8
岐阜県	4	0.4
静岡県	5	0.5
三重県	5	0.5
愛知県	144	13.5
石川県	24	2.3
滋賀県	2	0.2
京都府	14	1.3
大阪府	218	20.5
兵庫県	21	2.0
奈良県	5	0.5
和歌山県	6	0.6
島根県	1	0.1
岡山県	1	0.1
広島県	28	2.6
山口県	2	0.2
福岡県	71	6.7
佐賀県	2	0.2
長崎県	2	0.2
熊本県	1	0.1
宮崎県	2	0.2
鹿児島県	1	0.1
海外	2	0.2
小計	1066	100.0
無回答	34	
合計	1100	

(7) 告知後の居住地移動

Q.HIV 陽性告知を受けて以降、転居しましたか

	n	%
転居した	406	38.1
転居していない	661	61.9
小計	1067	100.0
無回答	33	
合計	1100	

(7-1) 【転居した人に】

Q. 転居した理由は何でしたか (複数回答)

	n	%	【転居した】 406名中 の%
HIV の治療のため	39	3.7	9.6
障害者手帳が取得しづらかったため	19	1.8	4.7
福祉サービスの質や種類のため	23	2.2	5.7
生活の改善のため	83	7.8	20.4
仕事の都合	118	11.1	29.1
HIV のため居づらくなったため	26	2.4	6.4
その他の個人的な事情から	217	20.3	53.4
転居していない	661	61.9	
全体	1067		
無回答 (主問)	33		
合計	1100		

38.1% の人が HIV 判明後に転居している。

転居理由は、個人的な事情と、仕事の都合や生活改善のためが多い。HIV との関連では、全体の 3.7% の人が「HIV 治療のため」、2.4% が「HIV で居づらくなった」、2.2% が「福祉サービスの質や種類」、1.8% が「障害者手帳が取得しづらかった」ことを挙げていた。

(8) 告知時の就労の有無

Q.HIV 陽性告知を受けた当時、収入をとまなう仕事をしていましたか
(自営の手伝いや内職も含む)

	n	%
していた (休職中を含む)	901	84.2
していなかった	169	15.8
小計	1070	100.0
無回答	30	
合計	1100	

HIV 告知を受けた当時就労していた人は
84.2% であった。

(8-1-1) 【就労者に】告知時の就労形態

Q.HIV 陽性告知を受けた当時の働き方

	n	%
主に就労	810	76.5
家事などのかたわら就労	12	1.1
通学のかたわら就労	7	0.7
仕事を休んでいた、休職中	61	5.8
就労していなかった	169	16.0
小計	1059	100.0
無回答 (主問)	30	
無回答	11	
合計	1100	

主に就労していた人が全体の 76.5% と多いが、休職中であった人も 5.8%。

(8-2) 【非就労者に】告知時の職業

Q.HIV 陽性の告知を受けた当時の職業は何でしたか

	n	%
専業主婦・主夫	8	0.8
学生	50	4.7
無職	95	8.9
その他	9	0.8
就労していた	901	84.8
小計	1063	100.0
無回答 (主問)	30	
無回答	7	
合計	1100	

HIV 告知を受けた当時、学生だった人は 4.7%、
専業主婦・主夫だった人は 0.8%、無職だった人は 8.9%。

(8-1-2) 【就労者に】告知時の雇用形態

Q.HIV 陽性告知を受けた当時の雇用形態
(休職中だった方は休職前)

	n	%
自営業 (個人 / 家族経営)	104	9.8
事業主 (従業員を雇用)	28	2.6
家族従業員	11	1.0
公務員 (常勤)	49	4.6
企業・団体の役員	13	1.2
企業・団体の正社員	441	41.6
契約社員	75	7.1
嘱託職員	12	1.1
パート・アルバイト	113	10.7
派遣社員	30	2.8
内職	1	0.1
その他	14	1.3
就労していなかった	169	15.9
小計	1060	100.0
無回答 (主問)	30	
無回答	10	
合計	1100	

(9) 告知後の離転職

Q.HIV 陽性告知を受けて以降、離転職をしましたか。した方は、仕事をやめた回数を教えてください

	n	%
した	430	40.5
していない	631	59.5
小計	1061	100.0
無回答	39	
合計	1100	

	n	%
1回	202	20.0
2回	91	9.0
3～4回	56	5.6
5回以上	28	2.8
離転職していない	631	62.6
小計	1008	100.0
無回答 (主問)	39	
無回答	53	
合計	1100	

HIV 判明後に離職した人は 40.5%。

(9-1) 離職理由

Q. もっとも最近の離職の理由は何でしたか (複数回答)

	n	%	「離転職をした」 427人中 の%
会社の倒産・事業所閉鎖	42	4.0	9.8
人員整理・勲奨退職	41	3.9	9.6
事業不振や先行き不安	40	3.8	9.4
定年・雇用契約の満了	32	3.0	7.5
よりよい条件の仕事を 探すため	125	11.8	29.3
仕事よりも健康や 生活を重視して	79	7.5	18.5
体力的な問題	107	10.1	25.1
健康管理上の都合 (服薬・通院・入院など)	59	5.6	13.8
精神的な問題	114	10.8	26.7
職業訓練や技術習得	15	1.4	3.5
HIV に対する偏見で いつらなくなった	23	2.2	5.4
休職可能な期間を越えた 治療が必要であった	15	1.4	3.5
HIV による解雇	8	0.8	1.9
結婚・出産・育児・介護・ 看護のため	12	1.1	2.8
その他	39	3.7	9.1
離転職していない	631	59.6	
全体	1058		
無回答 (主問)	39		
無回答	3		
合計	1100		

直近の離職の理由は、「より良い条件の仕事を探すため」「精神的な問題」「体力的な問題」の順。

5. 世帯・生計・制度の利用

(1) 同居者

Q. 現在、あなたが同居している人は誰ですか
(複数回答)

同居世帯の状況	n	%
ひとり暮らし	487	45.4
夫・妻	157	14.6
パートナー・恋人	130	12.1
友人	34	3.2
子	102	9.5
父母	257	24.0
祖父母	20	1.9
きょうだい	69	6.4
その他	12	1.1
全体	1072	
無回答	28	
合計	1100	

45.4%の人は一人で暮らしている。同居者がいる人は、「父母」との同居が24.0%、「夫・妻」が14.6%、「パートナー」が12.1%、「子」が9.5%。

(2) 世帯の家計主

Q. 世帯全体の家計を「主に」支えている人は誰ですか
(年金や生活保護が主な方は受給者)

	n	%
あなたご自身	752	70.6
夫・妻	35	3.3
パートナー・恋人	33	3.1
友人	2	0.2
子	2	0.2
父母	149	14.0
祖父母	1	0.1
きょうだい	12	1.1
その他	2	0.2
あなたと同居者と等分	77	7.2
小計	1065	100.0
無回答	35	
合計	1100	

70.6%の人は世帯全体の家計を主で支えている。

(3) 世帯の年収

(3-a) 世帯の収入源

Q. 世帯全体の収入源 (複数回答)

	n	%
自分の就労収入	773	76.1
同居者の就労収入	247	24.3
仕送り・援助	42	4.1
事業・内職・農業収入	30	3.0
家賃・利子・配当金	45	4.4
預貯金の取りくずし	103	10.1
障害年金	59	5.8
その他の年金・恩給	131	12.9
失業給付	14	1.4
傷病手当	16	1.6
生活保護	83	8.2
薬害被害の健康管理費用	21	2.1
薬害被害の発症者健康管理手当	12	1.2
その他	19	1.9
全体	1016	
無回答	84	
合計	1100	

自分の就労収入が76.1%と最も多い。預貯金のとりくずしも10.1%。

(3-b) もっとも主な収入源

Q. 世帯全体のもっとも「主な」収入源 (1つ)

	n	%
自分の就労収入	648	63.5
同居者の就労収入	113	11.1
仕送り・援助	16	1.6
事業・内職・農業収入	16	1.6
家賃・利子・配当金	11	1.1
預貯金の取りくずし	27	2.6
障害年金	12	1.2
その他の年金・恩給	63	6.2
失業給付	5	0.5
傷病手当	3	0.3
生活保護	81	7.9
薬害被害の健康管理費用	1	0.1
薬害被害の発症者健康管理手当	1	0.1
その他	10	1.0
自分と同居者の就労収入	13	1.3
小計	1020	100.0
無回答	80	
合計	1100	

63.5%の人は自身の就労収入が世帯全体の主な収入源としている。その他年金6.2%には親の年金も含む。